



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.622
6月号

— みるく大神 —

幾 万 年 待たれ給いし大神の

仕組は今し成らんとすなり

地上天国 打樹てんとて大いなる

力揮わす五六七大神

無限絶対の 力の原は主の神の

尊き御霊にありとこそ知れ



御光筆 日之出観音 (ひのでかんのん) 御尊像

昭和六年

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

◎方針のみちしるべ
(一) みつめなおそう明主様の心
(二) つらぬきとおそう明主様の心
(三) 教団綱領を尊び実践する
(四) 信仰継承は家族と家庭円満から

昭和六年六月十五日、初めて昼の世界になった最初の日である。房州の日本寺へ三十人連れてお詣りに行った。お寺で日本寺の名は珍しい。お寺はインドから来たものであるが、そこに神秘がある。日本は日の本と言うが、日本寺に天照大神様が御誕生になった意味になる。あそこは鋸山と言うが、寺へ行ってみると、乾坤山日本寺と書いてある。乾坤とは天地のことで、非常に大きい意味がある。それが二十年前の今日である。十年前の六月十五日は、民間治療をやっていたのが、昭和十五年十一月いっぱいまでやめ、翌年五月、元伊勢へお詣りした。その後七月一日に伊勢大神宮へ行った。六月十五日をはさんで天照大神様に関係した仕事をしたわけである。今年の六月十五日は二十年目である。これ神幽現の三段になっている。すなわち三界とか三千世界と言うのはこれである。幽とは仏界であり幽冥界

とも言われる。そんなわけで、今年から現界の昼間になる。今日がその第一歩である。
(昭和二十六年六月十五日 御講話より抜粋)

「東方の光」ということが一番肝腎なので。私のお腹に光の玉があつて、その光がたいへんなものなのです。いままで西から東に、文化と言いますか、なにかからなまでに向こうから来たのです。これは逆であつたわけですから、東が霊で西が体ですから、体主霊従というのはそこから来たといつても良いです。そのために体的文化が発達していったという、本当の幸福な文化はできなかったというのは逆であつたからです。始終言う医学でもそうです。体を治すと言うのです。こっちは霊を治すのです。ですから当然東から霊的文化が生まれなければならぬのです。それで、それに対して霊的は中心ですが、やはり霊ばかりではしょうがないので、体が肝腎なのです。そこで西から作った体の文化を、東から出た本当の、つまり中身です。それによって西の文化を、いままで悪いことに使っていたのを良いことに使うように変えるのです。
(昭和二十七年十一月七日 御講話より抜粋)

学び「ノアの洪水」

去る、令和六年立春祭・

数年かかって、ようやく

次に、旧約聖書に、ヨハ

特別大祈願、二月祈願祭に
おける光守様「おことば」の
中で明主様が旧約聖書にあ
る「ノアの方舟」の神話を引
用された話から私たちが頂
いている『おひかり』につな
がるお話をされました。さら
に浄霊の意義について『神言
霊』を賜りましたので学ばせ
て頂きましょう。

神言霊

ノアの洪水のことをのべ
てみよう。

これは、数千年か、ある
いは数万年以前のできごと
であろう。古代ヨーロッパ
のある国に、ノアという名
の兄弟があった。その兄が
今日でいう、神憑りになっ
てこういうことを示された。
それは、近く大洪水があ
るから、世人に向かって大い
に警告せよ。というので、兄
弟はすこぶる熱心に、民衆
に向って警告をあたえたが、
誰も信じようとはしない。

六人の信ずるものができた。

ネは、水の洗霊をなし、キ

神はまた、方舟を造れと命
じた。方舟というのは、銀杏
の実の形をした舟で、すな
わち蓋があるのである。
ところが、しばらくして
果せるかな、長雨が続いた。
この雨を百日降ったという説
と、四十日という説がある
が、とに角長期間の豪雨に
は違いなかった。

リストは、火の洗霊をする
ということが出ているが、
ノアの洪水が、ヨハネの水
の洗霊であるとすれば、キ
リストの火の洗霊は、最後
の審判でなくてはならない
ことになる。
しかしながら、水とは体
的であり、火とは霊である
から、吾等が今行っている、
霊を以て霊を浄める浄霊法
こそ、全くの火の洗霊である。

漸次水量は増し、人家は
ことごとく水中に没し、わ
ずかに山の頂のみが残った。
人々は争うて船をやり、ま
たは高山の上に登ったが、
意外にも猛獣、毒蛇も、人
間と同様助からんとして、
高山にあるいは、舟に登っ
て来た。

そうして、空腹の為、残
らず人間を喰い殺したので
ある。しかし、方舟には蓋
があるから、登ることがで
きず、八人だけは助かった
のである。その八人の子孫
は、今日の白人の祖という
ことになっている。

明主様 御詠

浄霊の名もて行うわが業は
火の洗霊のことにぞありける

私たちがお取次ぎさせて
頂く浄霊が『火の洗霊』の
名のごとく神の御光によつ
て人々の身魂の曇りを焼き
払い、洗い浄める神業であ
るといふ事を分らせて頂
き、少しでも、神様の御救
いの御業のお手伝いのお許
しが頂けますよう取り組ん
でまいります。

令和六年四月慰霊祭 会長挨拶 (抜粋)

善言讃詞に「五風十雨のくるい
なく」とあります。

このことから物事には順序が
あり、それが正しく守られること

れるので肉体を持っている私たち
からすればさながら満員電車のよ
うな窮屈な感じをイメージされる
方もいるかもしれませんが、霊と
いうものは肉体がなく、大きく
なったり、小さくなったりするこ
とができるので、そこに入るだ
けの大きさとなり、霊界の順序に
応じて正しく整列されて私たちの
礼拝に対しては、礼儀正しく丁寧
にごあいさつをされます。目に見
えない存在ではありませんが、この
ような教えを明主様から頂いてお
りますので、日々のご参拝に対し
てもこのことを心掛けていただき
たいと思います。

「祝詞」その奥をひもとく」を
拝読いたしますと、五日に一度風
が吹き十日に一度雨が降るとい
うような、まことに穏やかな狂い
のない秩序正しい世の中であってこ
れが五六七(みろく)の御世、地
上天国の相であり、それをご神力
によってつくられるのである。と
あります。一般的にも世の中が安
泰である様子を表す言葉とされて
います。

で平和な天国世界がつくられてい
くわけで、これは仏教でいうとこ
ろの極楽浄土でもあります。
明主様は、『仏壇の中は極楽浄
土の型であってそれへ祖霊をお
迎えるのである。』と仰ってお
られます。また、極楽浄土は様々
な花がたくさん咲いていて、いい
香りが漂い、常に音楽を楽しみ、
飲み物や食べ物豊富にある中
で、祖霊様は非常に喜びを感じつ
つ生活をされておられます。

ひいては、目の前の相手に対し
ても礼儀正しい気持ちをもって接
することが出来る人たちが増えて
いけば、地上天国が広がる事にも
つながるのではないかと思います。
まずは、みなさん、お一人おひと
りが、この気持ちをもって、新年
度を踏み出してまいります。

四月慰霊祭



教団では、東京本部祖
霊殿がその役割を果たし
ており、毎月の慰霊祭に
は、たくさんのお膳やお
花をお供えさせていただ
いているわけです。
また、御招魂させてい
ただく祖霊様は、決めら
れた「みたましろ」にお
鎮まりになられるわけ
ですが、多くの祖霊様が同
じところにお入りになら

最後に、ご静養中の光守様に思
いを寄せつつ、皆様とともに四月
慰霊祭をご参拝させて頂きました
こと大光明、明主様、幽世大神様
に感謝を申し上げ、ご挨拶とさせ
ていただきます。

感謝奉告

浄霊体験日に未信徒が
浄霊体験。
継続することの大切さと
種まきの大切さを
あらためて実感。

森 路子

〈東京教会〉

今年一月二十八日の浄霊体験日のことを御奉告させて頂きます。

いつものように信者さんが来て下さり、午後三時頃まで浄霊のお取次ぎをさせて頂き、地下の食堂にて皆さんでお茶をいただき、この日は解散となりました。岡田さんと一緒に一階に上がってきたところで、玄関に二十代半ばくらいの、おそらくカップルと思われる男性と女性が立っていて私達を見ると、女性の方が「浄霊やってくれるの?」と声をかけてきました。私は「浄霊やるよー。」と答え、岡田さんが「二階へどうぞ。」と案内して下さいました。

あまり時間がなく十五分くらいで、と言っていました。二十分位させて頂いたかと思えます。

女性は、岡田さんから浄霊

頂きました。

を頂きながら「人の邪気をうけてしまう。」と話していて、自分でもある程度払うことが出来るそうですが、強い邪気は厳しいとの事でした。職種は分かりませんが二駅ほど先の店舗で店長をしていて仰っていました。責任ある立場であり、パソコンを使うので、頭が疲れるという話もされていました。たまたま近くの店に来る用事があり、通りがかりに浄霊体験日の看板を見て立ち寄ったそうです。終わってから感想を聞くと、体が軽くなったと言っていたのと、岡田さんの手から煙が出るのが見えたと

言っていました。男性の方は大柄で優しい感じがの人でおそらく彼女について来ただけだからか、「どこか気になるところはありますか?」と聞いても「特にないです。」と言っていました。頭が疲れているように感じたのでそのまま伝え、肩を触らせてもらおうと普通に凝っていました。身なりから

も今どきの若者なのだなと思

いました。浄霊を始めたのが三時五十分くらいでしたので、夕拝の時間となりましたが、最初に「これから夕拝があるけど気にしないでね。」と伝えておいたので特に気にする様子もなく浄霊を受けていました。玄関まで見送り、岡田さんは「またいつでも気軽に来てね。」と声をかけ、二人は帰って行きました。二人を見送ってから、緊張していたのかどつと疲れがでて、岡田さんが「お茶でも飲もう」と言ってくださり、二人でお茶を飲みながら「やっぱり神様が連れて来られるのよ」という話になり、毎月浄霊体験日を設けるようになって一年以上経ちますが、不意に訪れた出来事に、続けていて良かったと心から思いました。

つも来てくださる信者のみなさんをはじめ、何よりも光守様の深いお祈りの元このようにな出来事がありましたことにご深く感謝申し上げます。大光明、明主様ありがとうございました。



英語版浄霊看板の前にて (写真左の方が森路子さん)

自身の書道経験を
御用にフル活用。
家族の支えで続けられた
ことに感謝。

遠藤 セツ

〈東京教会〉

二月の合同委員会、五月の「こども祭」に、書道教室をやってほしいと依頼されました。又、光導実践委員長の森さんと打ち合わせの時、「漢

字とかな書道」についてということになりました。

私は、結婚してからすぐ、義母に「近くの八百屋さんの二階で書道教室をやっているみたいですね。」と話をしました。「そうよ、あなたも行ってみれば。」と言っていたので話を聞きに行き即入会しました。漢字の先生でした。週に一回稽古に行っては

書いて欲しい」とお話を頂き、毎月書き換え、張り替える御用を頂いてきました。又、教会で書き物の御用がある時はお手伝いさせて頂いています。私が楽しんでやっていたことが皆様のお役に立

た。週に一回稽古に行っては買物して帰るという生活でした。四人の子供が生まれ、皆スクスクと元気に健康に育ってくれました。義母の支えもあり、教会の参拝、稽古、買物物の時など、子供の世話も義母に頼んで、お世話になりました。大変感謝しております。

私に感謝いたします。今度のこと祭での書道教室のお話も頂き、誠に誠にありがたく思っております。これからも体力が続く限り元気に努めて参ります。大光明、明主様、いつも御守護頂きありがとうございます。

私は七年の間に師範資格をとりました。雅号をいただき、大きな展覧会にも出品させていただきました。あちこちの展覧会を拝見しているうちに、かな作品を書きたいと思い、今大会に入れていただき四十一年目となり、今年はこの副会長になりました。

何年位前になりますか、光守様より、東京教会の玄関前の掲示板に「明主様の教えを



御自身で書かれたお習字の見本と共に

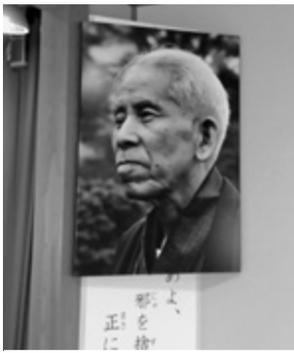


長岡教会にて『明主様御遺作展』、「塩釜教会信徒作品展」行われる

令和六年四月六日、長岡教会に教団所蔵の明主様御遺作十点が運ばれ、教団初の「御遺作巡回展示」が始まった。御遺作は全て二階礼拝堂に展示され、さらに神光あふれる神聖な空間となった。

また時を同じく、東京から浜松を経由して三箇所目の展示となる「塩釜教会信徒の作品」も多数運ばれ、一階談話室から階段へ所狭しと芸術作品が展示され、教会全館が「光と美にあふれる癒しの場」となり、訪れる信徒さんから感嘆の声があがった。

今回の展示品は総勢五十三点上り、信徒の奉仕により二日間に渡り慎重に展示作業が行われた。



『明主様』御写真

明主様御遺作展示



観音様御画三様と明主様御直筆の箱書



2階礼拝堂正面



『大浄力』



礼拝堂側面に展示された御遺作の数々



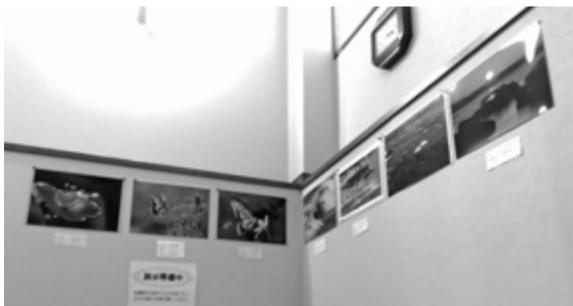
『光明』



『地上天国』



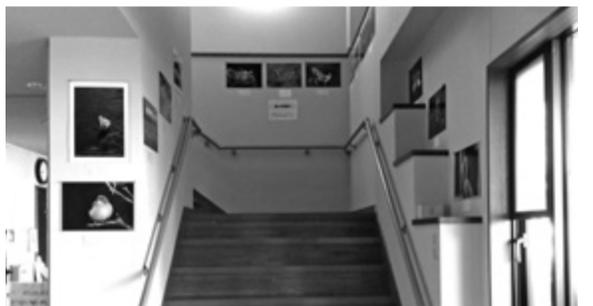
上『光 落款、(フシ)』下『日月地』



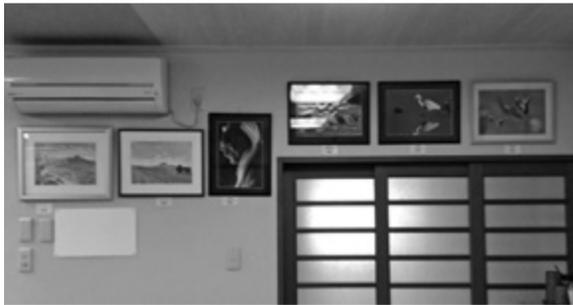
武山逞夫氏 写真(階段踊場)



武山逞夫氏 写真(階段左側面)



武山逞夫氏 写真(階段正面)



鈴木恵美子氏 風景画 & 武山逞夫氏 額写真(談話室)



庄内千恵氏 油絵(談話室)



武山逞夫氏 写真(階段右側面)



前:庄内千恵氏 日本画作品集 後:唐澤氏(岡谷)写真集



鈴木恵美子氏 お人形



木皿謙堂氏 書

塩竈教会芸術作品展



展示奉仕者の皆さん